

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

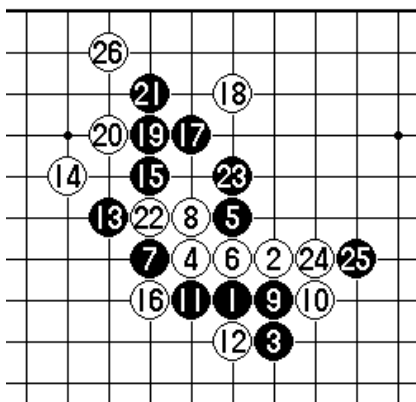
●第35回● やつぱり浦月？

年始の重要棋戦と言えば、三上杯である。この大会は東京に来て最初に参加して優勝する事ができた縁起のいい大会である。しかし、今回は中村九段が参加し、優勝はかなり難しいと思われた。中村、山口、岡部と相手にとって不足のないメンバーが参加し、題数指定打ちでこれだけのメンバーが揃えば、今年の流行も見えてくる。ぜひ参加したい大会であった。結果は中村氏が全勝で圧勝だったが、得たものも大きかった。

早速中村戦をご覧いただきたい。私が2勝1分、中村氏が3連勝、まあ勝った方が優勝だろうという状況であった。

最近では浦月をよく打っていたが、中村氏も浦月に着

目していたようである。浦月五題を指定された。この大会で既に私は磯部戦で浦月六題を指定していたので、迷わず黒を取った。

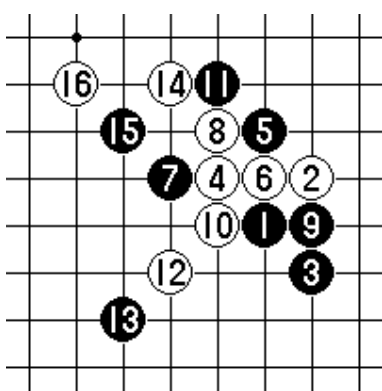


最近、この5を研究しており、磯部戦でも使ったのだが、中村氏もこの5を残し、白6、8の作戦で来た。

黒9は絶対の場所なのだが、次の10を見て早くも作戦の失敗に気づいた。24と11の地点に両方打ちたいのだが、そんな暇がない。やむなく11と打ったが、白12が急所で黒困った。13からは成算の無い展開を余儀なく

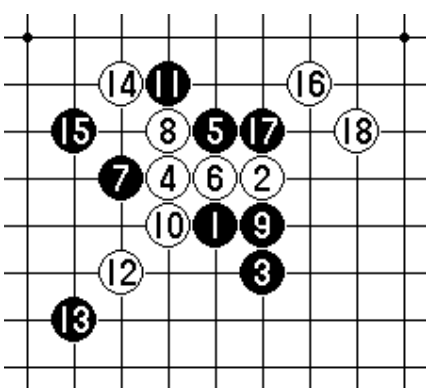
された。何か攻め手を打っておかないと防ぐに防げない。以下72手まで粘ったものの、内容的には完敗であった。

先に述べたように、磯部戦でも浦月を指定して黒5と打った。磯部さんは白10から攻めてきたが、白16の甘着を捕らえて一気に黒が勝つ事ができた。

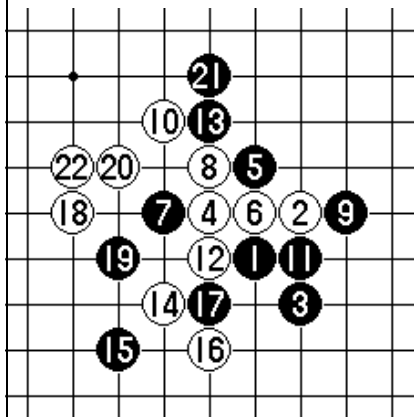


中村氏はこの局を横目で見ていたようだが、こうは打たなかった。しかし、局後に白16から右辺に展開して白が勝っているのではないかと検討になった。白16、18というのは白の常

套手段だが、なるほど確かに黒は止めにくい。研究課題だろう。

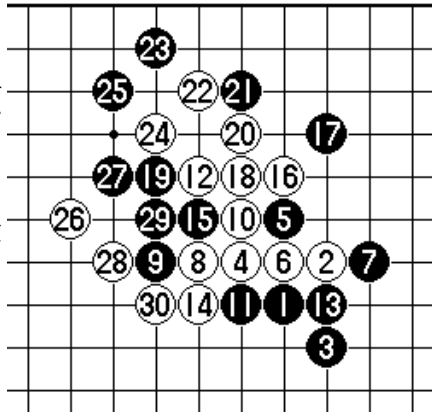


そもそも、この5は12月の坂田・蔵田杯（東京連珠会）で岡部君とも打っている。その時は黒9を2の横

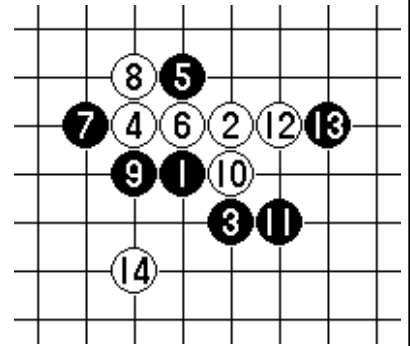


に打ったのだが、局後図の
ような追い勝ちが発見され
たため、黒9は2の下がほ
ぼ絶対となっていた。

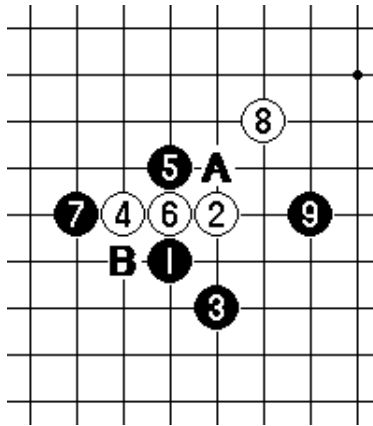
ちなみに、黒7を反対は
図のように恒星定石を黑白
反対にしたような勝ちがあ
るので、黒7では負けとな
る。同じような形でも、黒
3の位置が影響しており、
この形では黒にとっていい
位置にない。



冒頭の図に戻り、この8
が良い理由は、一番打ちた
い黒9に打つと、すぐに
三々禁になってしまうから
である。

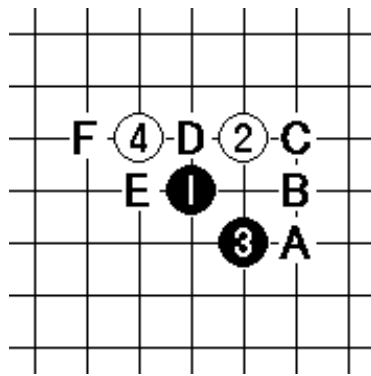


白8は他にも考えられる
が、例えば図のような8で
は黒9が妙手となり白が良

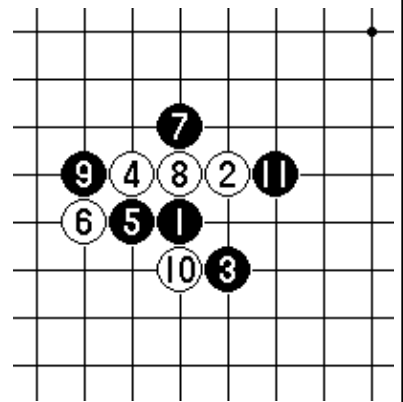


くない。白8がAなら黒9
をBに打たれてしまう。も
ともと黒5はこういう手を
期待していたものなので、
正確に白8を打たれるとあ

まりよろしくない。そろそ
ろこの5には見切りをつけ
た方が良さそうだ。
まあ浦月では他にも候補
がたくさんある。
AとCはほぼ勝ちだが、
Dも黒が良さそうだ。五題
目以降が問題だが、EとF
が考えられるので、六題打
ちが可能という訳である。



例えば黒5をEの選択な
ら、以下11までが考えられ
る。これは、通常の斜月に
形が似ているが、白2の位
置が通常は一路上なので、
若干黒が得と思う。したが
って、黒5をEは若干黒が
有利だろうか。



また、黒5をFも似たよ
うな展開となり、これはど
ちらが得をしているかわか
らないが、白6を一路右な
ら斜月に戻る。題数指定は
とにかく情報が重要である
情報合戦がしばらく続くだ
ろう。

